

8章 モア・ゴムクローラの取り扱い

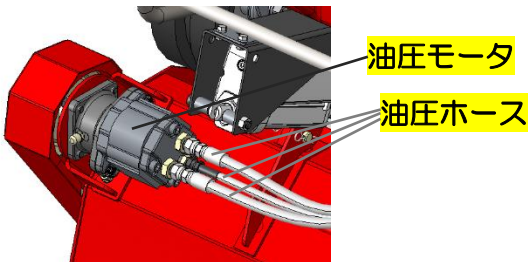
1. モアの取り外しのしかた



警告

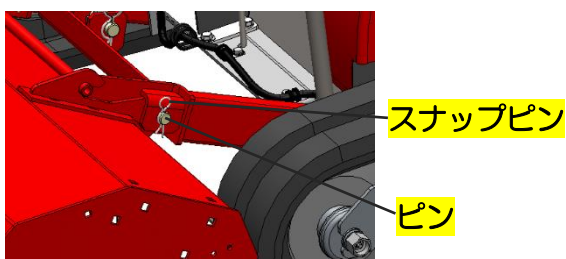
- モアの取り付け、取り外しは平坦で安定した場所で行なってください。夜間は適切な照明をしてください。守らないと、事故を引き起こすおそれがあります。
- 本機を移動してモアを着脱するときは、本機の周辺やモアの間に入らないようにしてください。守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- モアの取り付け、取り外し作業を行なうときは、必ずエンジンを停止させ、ナイフ軸の回転が止まってから行ってください。
- ハンマーナイフモア以外の作業機を装着する場合は、事前に必ず取り扱い説明書をよく読んでください。守らないと、障害事故や機械の破損を引き起こします。

- (1) 平坦な地面に本機を駐車し、モアを地面と接するまで降ろしてエンジンを停止させてください。
- (2) 事前に油圧モータと油圧ホース接続部周辺をきれい清掃にします。ホースを戻すときに間違えないように目印をつけます。油圧ホース3本をモアの油圧モータから外してください。

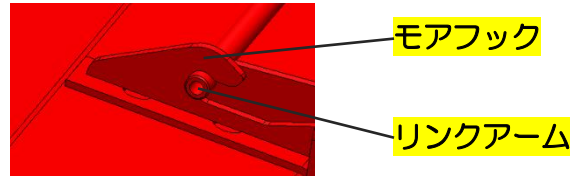


油圧ホース・油圧モータの内部にゴミ等が入らないように養生してください。

- (3) モアと本機の接続部にあるスナップピンを引き抜きます。(左右2本)
ピンを抜きます。(左右2本)

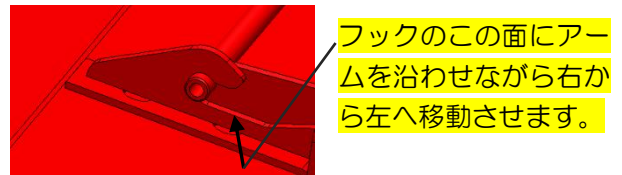


(4) 作業機昇降スイッチ



- モア昇降スイッチでモアを下降させてモアのフックからリンクアームを下側へ外します。
※この時エンジンは始動せずに本機のキーを入れて本機のモア昇降スイッチを使用してください。エンジンを始動すると外した油圧ホース先端から作動油が漏れます。モア無し状態で本機を移動させる場合はG3/8-2個、G1/4-1個のメスシートプラグを油圧ホース先端に締め付けてください。
- モアフックからリンクアームが左右両側離れたらモアは自由に移動できます。

2. モアの装着のしかた



- (1) リンクアームをモアフックの下面に沿わせるようにモア高さを合わせてモアと本機を近づけます。
- (2) モアフックの奥までアームが移動したらモア昇降スイッチでモアを「上昇」させてフックにしっかり掛けます。
- (3) 取り外し時の逆の要領で左右のピンを差し込み、スナップピンで抜け止めをします。
- (4) 油圧ホースを油圧モータへ取り付けます。

8章 モア・ゴムクローラの取り扱い

3. ゴムクローラの取り扱い、使用上の注意

- ゴムクローラは材料特性上、多くの特長を備えています。取り扱いを誤ると早期摩耗や破損を起こす場合があります。

(1) ゴムクローラの張力（張り具合）

ゴムクローラは、張力の管理が必要です。

張力が緩いと、走行中に脱輪（ゴムクローラが外れる現象）が発生しやすくなり、ゴムクローラの故障の原因になります。

9章定期点検 16番・・・P63参照

(2) 走行路面

- 下記のような路面を走行すると、ゴムクローラの接地面側に傷が発生しやすいのでなるべく避けてください。やむを得ず走行する場合は、急発進、急停車、急旋回をやめ、ゆっくり走行してください。

守らないと、クローラ損傷の原因となり寿命が短くなります。

「碎石路面、凹凸の激しい硬い岩盤

石の多い林道、切株の上、鉄筋、鉄くずの多い場所」

- コンクリート等の壁にゴムクローラの端部をこすりつけて走行すると、ゴムクローラの端部に亀裂が発生しやすくなりますので注意してください。

- 大きく突出した凸部のある路面では、脱輪が発生しやすいので、ゴムクローラの状態に注意しながらゆっくりと走行してください。

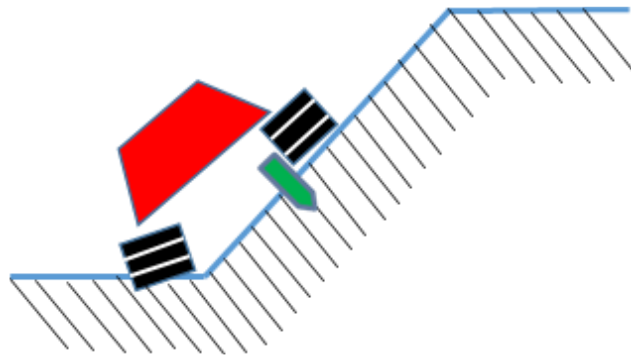
(3) 走行方法

- 縁石のような大きな段差のある場所での旋回は避けてください。段差を乗り越えるときは、段差に対して直角に進んで乗り越えてください。

- 平坦地から傾斜地への進入は片側のクローラに大きな荷重がかかりますので旋回は避けてゆっくり走行してください。

- 下図のようにクローラの片側が急傾斜面、もう一方のクローラを平地という様な走行はなるべく避けてください。同様に杭や切株など突き出た障害物へクローラ側面を接触させての走行もできるだけ避けてください。

クローラ脱輪が発生しやすく、転倒や滑落の事故を招く恐れがあります。



※転倒させてしまった場合には直ちにエンジンを停止させ、正立の状態に戻したのち各部の損傷有無を確実に確認し、安全を確保してからエンジンを始動してください。

(4) 油類の付着防止

- ゴムクローラに燃料や作動油が付着しないように気を付けてください。もし付着した場合、すぐふき取ってください。

(5) 塩分に注意

- ゴムクローラを塩分の多い条件で使用すると、内部の芯金が腐食して、故障の原因になりますのでなるべく避けてください。やむをえず使用される場合は、使用後によく水洗いをしてください。

(6) 保管方法

- 機械を長時間使用せずに保管する場合は、なるべく直射日光を避けて、室内に保管してください。